



市川中HP

## 2学期の始業にあたり

▼25日(金)、34日間の夏休みを終え、2学期がスタートしました。始業式では、私からは、今何かと話題のチャットGPTの話を織り交ぜながら「失敗を恐れずにチャレンジしてほしい」ことを伝えました。▼続いて代表者による2学期の決意表明がありました。1年代表の一瀬うみさんからは「1年生の長所である笑顔と前向きさを2学期も発揮したい」、2年代表の小島里奈さんからは「授業中の発言や反応をよくして、自分から行動できる力を高めたい」、3年代表の村松沙優さんからは「受験は団体戦、全員が主人公として輝きたい」、生徒会代表の丹沢真唯さんからは「学年に関係なく行動・助け合いすばらしい陵風祭にしたい」という決意が述べられました。



▼以下は校長の話の概要です。

▼「新学期が始まりました。皆さんが元気に登校される姿を見ると、私たち教職員もとても嬉しく思います。1学期は皆さんが様々な学びと成長を遂げる姿を見て、感動しました。しかし、学びは止まることなく、常に前に進むものです。だからこそ、新しい学期が始まる今、皆さんには新たな目標とチャレンジが待っています。2学期も、皆さんが自分自身に向き合い、知識を深め、人間性を磨いていくことを願っています。困難なこともあるかもしれませんが、それを乗り越える力を皆さんは持っています。そして、その過程で得る喜びや達成感は計り知れません。私たち教職員は、皆さんが安心して学び、成長できる環境づくりに努めてまいります。どうぞ、何か困ったことや相談事があれば、遠慮せずに頼ってください。共に成長し、素晴らしい学期を過ごしましょう。」▼実は今、述べたあいさつは、生成AI「チャットGPT」で「2学期、中学校、始業式、校長あいさつ」と入力し、作成したあいさつ文です。いつもの校長先生のあいさつと比べて、どうだったでしょうか？いつもより、出来がいいと感じたということであれば、立つ瀬がないのですが、やはり、心に響く、または、心に残る内容にはなっていないのではないかと思います。

▼ある調査会社の調べによると、チャットGPTの認知度は中学生では9割、利用したことのある人は3割、そして、利用したことのある人たちの約6割が、「調べ物や情報収集のため」としています。▼このチャットGPTの教育活動における活用については、文部科学省も「暫定的ガイドライン」を7月4日に出しました。基本的な考え方としては、生成AIの仕組みの理解、学びに生かす視点、将来使いこなす力を育てることは大切であるという前向きな評価の一方で、発展途上で個人情報の流出、著作権侵害、偽情報、批判的思考や創造性、学習意欲への悪影響も心配されており、子どもの発達段階を十分に考量する必要があるとしています。(特に小学生の利用には慎重な対応が必要)その上で、今後議論を深めるために、不適切な活用例等を示しています。▼専門家は、チャットGPTは途方もない能力を持っている。さらに、この1年で、文書系だけでなく、画像・音楽生成をはじめ毎日新しいサービスが生まれている。「このワイルドな技術革新の時代に、教育だけが今のままでよいはずがない」と言い切っています。

▼確かに、その通りだと考えます。生成AIに限らず、新しい試みを「まずはやってみる。やりながら考える。違っていてもやめる。よければさらにより活用法を考える。」というように、機を逃さず、失敗を恐れずに、まずは挑戦する姿勢が、特に若い皆さんには必要であると考えます。2学期には陵風祭も行われます。是非、チャレンジしてください。▼とは言え、来週からは本格的に学校生活が始まります。中には、うまく切り替えがつかずに、学校生活が不安であったり精神的な辛さを感じたりする人もあろうかと思いますが、何か困ったことや相談事があれば、一人で悩まずに先生方を頼ってください。知っている人では相談しにくいという人は「24時間子どもSOSダイヤル」等も活用するのもいいと思います。▼まだまだ暑い日が続きます。熱中症対策・コロナ対策も行いながら、一日一日を元気に過ごして欲しいと思います。充実した2学期になるよう、がんばっていきましょう。

24時間子どもSOSダイヤル  
0120-0-78310